

### 1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成21年6月13日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	2874400274		
法人名	特定非営利活動法人 ダーナアネシス		
事業所名	認知症高齢者対応型グループホームアネシス		
所在地	兵庫県豊岡市寿町2-16 (電話) 0796 - 22 - 0775		
評価機関名	株式会社H.R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成21年4月18日	評価結果確定日	平成21年8月4日

#### 【情報提供票より】 (平成21年4月7日事業所記入)

##### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年 2月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算	8人

##### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1・2階部分

##### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,250 円	その他の経費(月額)	31,000 円
敷金	有( 円)	( 無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 利用料の1か月分 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり	円	7

##### (4) 利用者の概要 (4月 7日現在)

利用者人数	7名	男性	1名	女性	6名
要介護1	2	要介護2	2		
要介護3	3	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 86.1歳	最低	79歳	最高	94歳

##### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	しらゆり診療所
---------	---------

#### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

昔懐かしい民家の佇まいが家庭的で落ち着いた雰囲気を感じさせ、開放的された広い間口は地域の方が気軽に立ち寄れる雰囲気の施設である。地域に届け込み家庭的な環境の中で、ご利用者がその人らしく自立した生活を支援することを理念に掲げ、日頃から地域住民の方との交流を心がけている。管理者・職員はご利用者一人ひとりが、自分らしく安心して生活が過せるように支援し、ご利用者と共に生活する中で人生の先輩として尊敬し、ご利用者の自主性を損なわないように支援することを心がけている。医療機関への受診はご利用者・家族の希望を優先し入居後もなじみの医師への受診可能で、受診前に情報を提供し医師とは十分連携を密にし、十分な健康管理が出来る。

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	前回の評価結果を項目に添って見直しの実施を計画している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
重点項目	今回の評価について職員会議において、外部評価受審の意義を説明し、自己評価についてスタッフの意見を集約し、管理者がまとめた。評価受審を日々のサービスについて振り返りの機会としている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
重点項目	運営推進会議開催に関して管理者は、地域の区長には具体的に声をかけ、運営推進会議の開催に向けて努力しているが、諸事情があり実施に至っていないが市からの助言もあり5月に開催予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
重点項目	月に1度請求書送付する際に利用者の日々のご様子・身体状況などを同封している。また、家族の面会時に必ず顔を会わせて状況報告を行っている。利用者の体調不良時、事故発生時にも随時報告は丁寧に行っている。家族の苦情・要望を聴取する機会は特別に設けていないが家族の面会時に積極的に話を設け、家族の思いを会話の中から汲み取り日々の支援に反映するように取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	老人会・地域の会合・地域行事に参加し施設の理解を深めるように努めている。また、事業所のイベントには参加を呼びかけている。職員・利用者は散歩の際に地域の方々との挨拶を心がけ、交流が出来るよう心がけている。近隣の人々とは季節のお花を持ってきていただくなど自然な形で交流が行えている。

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域にとけ込み家庭的な環境の中で、利用者がその人らしく自立した生活を支援することを目的とした親しみやすい理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員との接点をもち意見交換をしながら理念に基づいた支援を行っている。職員と話し合うことで理念への共有できている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会・地域の会合・地域行事に参加し施設の理解を深めるように努めている。また、事業所のイベントには参加を呼びかけている。職員・利用者は日常的に挨拶を心がけ、交流が出来るよう心がけている。近隣の人々とは季節のお花を持ってきていただくなど自然な形で交流が行えている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価結果を項目に添って見直しを計画している。今回の評価について職員会議において、外部評価受審の意義を説明し、自己評価についてスタッフの意見を集約し、管理者がまとめた。評価受審を日々のサービスについて振り返りの機会としている。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議開催に関して管理者は地域の区長には具体的に声をかけ、運営推進会議の開催に向けて努力しているが、諸事情があり実施に至っていない。市からの助言もあり5月に開催予定である。</p>		<p>運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容を理解し、地域の支援を得るための機会となることから早急な開催が望まれる。行政・知見を有する方・地域住民・家族など幅広いメンバーを選出し2ヶ月に1度開催されることが望ましい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現状では事業所単体では市町村との直接的な連携は取られていない。</p>		<p>施設の現状の理解を求め、現場や利用者の課題解決のためには、機会のある毎に積極的な連携の機会を持たれることが望ましい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度請求書送付する際に利用者の日々のご様子・身体状況などを同封している。また、家族の面会時に必ず顔を会わせて状況報告を行っている。利用者の体調不良時、事故発生時にも随時報告は丁寧に行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特別に機会を設けていないが家族の面会時に積極的に話をする機会を設け、家族の思いを会話の中から汲み取り日々の支援に反映するように取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はほとんどないがやむない退職に対してはも、利用者への影響を第一に考え、ダメージを最小限にするように利用者に接している。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修への計画的な取り組みはないが、職員育成研修の受講を実施している。管理者は業務を行う中で職員自身が自発的に探し出し、取り組んでいくことを期待している。</p>		<p>外部研修だけでなく計画的な内部研修の実施及び、段階的な研修受講の取り組みを期待する。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会のつながりがあり、交流の機会も設けている。</p>		
<p><b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>基本的には施設見学の後、入所するようになっているが、家族の事情を考慮して柔軟に対応している。体験入居の体制も整っている。た利用までのスケジュール作りを考えている。</p>		
<p><b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご利用者と職員が共に生活する中で、職員はご利用者を人生の先輩として尊敬し、自主性を損なわないように、支援することを大切に考えている。職員もご利用者から学び取ろうとする姿勢を大切に、一方的な介護にならないよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中での会話や、行動の中から思いを汲み取り、ご利用者の意向・希望の把握に努めている。また本人の言葉に表されない気持ちを理解しながら思いに添えるよう支援している。ショートカンファレンスの時間を設けご利用者の状況の把握に努めている。</p>		
<p>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入所時のアセスメントに終わらず、入所後は日々の生活の中での会話や、家族からの情報を基に、ご利用者の意向・希望の把握し、個別具体的な介護計画を作成している。また本人の言葉に表されない気持ちを理解できるよう努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ショートカンファレンスの時間を設けて情報を共有し、日常的に入居者の状況変化の把握・適切な対応は出来ているが介護計画の見直しにまでは至っていない。</p>		<p>高齢者の状況は変化しており、実情と介護計画とのずれが生じてくる場合は設定した期間での見直しはもちろん、随時の介護計画の見直しが望まれる。また、安定している場合でも月1回程度、予防的視点からの見直しが望ましい。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を整備し、利用者や家族が安心して暮らせるような対応を心行っている。受診同行・個人的な買い物・散歩理美容、お寺参りなど個々の希望にあわせた柔軟な支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・家族の希望を優先し入居後もなじみの医師への受診可能である。受診前に情報を提供し医師とは十分連携を取っている。受診後は家族報告を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医の診療所に入院設備が整っており、家族の希望に対して柔軟な対応が可能である。また、医療連携体制も整っており、訪問看護サービスを受けながら終末期・重症化した場合でも施設で過ごすことが出来き、家族の安心が得られている。医師・家族・施設との連携により終末期支援の実績もある。		今後の重度化や看取りの対応に備えマニュアルを作成し、方針や対応について職員間で共通認識を持つことが望ましい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者・職員はご利用者一人ひとりに合わせた親しみやすい言葉で声かけを行っている。管理者は日々関わる中で人間関係を大切にしご利用者への尊厳・プライバシーに配慮したかわりが出来るように指導している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の決められたスケジュールは作らず利用者一人ひとりの状態・希望に合わせた過し方が出来るように支援している。管理者はご利用者のペースにあわせ、職員のスケジュールを優先しないよう指導している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の状態・個々の力量を見極め役割が果たせるよう職員が一緒に行い、自信につながるよう支援している。また、ご利用者と職員が食卓を囲み、雑談しながら食事の時間を楽しく過している。利用者が献立作りを行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後からであるが、入浴を拒否する利用者には無理強いせず、利用者の気分やタイミングにあわせ入浴を勧めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	献立作り・調理の手伝い後片付けなど、利用者の力量に応じて役割を活かしている。また、ご利用者一人ひとりの趣味を把握し、出来る限り利用者の楽しみごとの場面作りに努めている		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に職員と共に食材の買い物・散歩・買い物など個別に外出支援を行っている。家族にも働きかけ外出・外泊を勧めている。毎日のように施設周辺の散歩を日課としている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は施錠の弊害を理解し、日中は開錠しており、外出も自由にできる。夜間20時から玄関のみ施錠している。		
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所内の避難訓練は実施している。		事業所内訓練を実施すると共に、利用者・地域住民の協力を得ながら避難訓練の実施が望まれる。また、職員だけの誘導の限界を確認し、夜間を想定した訓練が望ましい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査を実施し、ご利用者個々の好みを把握しながら柔軟な対応が出来ている。栄養バランスも偏りがなく。食事量・水分量・排泄量をチェックし、一人ひとりの健康状態に配慮されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔懐かしい民家の佇まいが家庭的で落ち着いた雰囲気を感じさせ、ご利用者が安心して過ごせる共用空間が整っている。窓から入ってくる自然光や調理する匂いを身近に感じられ利用者の五感刺激となっている。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた環境をそのまま移した感じがする落ち着いた居室に馴染みの品物を持ち込み、安心して過ごせる個性豊かな環境が造られている。家族の宿泊も可能になっており利用者が安心して過ごせるよう配慮されている。		

は、重点項目。